

|                  |   |
|------------------|---|
| Title            | アセアン諸国の経済発展に対する日本の政府開発援助の役割   |
| Sub Title        |   |
| Author           | 鈴木信泰(Suzuki, Nobuyasu)<br>小林規威  |
| Publisher        | 慶應義塾大学大学院経営管理研究科  |
| Publication year | 1994  |
| Jtitle           |   |
| JaLC DOI         |   |
| Abstract         |   |
| Notes            | 修士学位論文. 1994年度経営学 第1097号<br>複写許諾が必要   |
| Genre            | Thesis or Dissertation  |
| URL              | <a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001994-1097">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001994-1097</a> |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

|      |           |    |       |
|------|-----------|----|-------|
| 学生氏名 | 鈴木 信泰     | 主査 | 小林 規威 |
|      |           | 副査 | 藤枝 省人 |
|      |           |    | 青井 倫一 |
| 所属   | 小林 規威 研究室 |    |       |

## アセアン諸国の経済発展に対する日本の政府開発援助の役割

本論文の研究目的は、現在も急速な経済成長を遂げているアセアン諸国と、その成長に貢献してきた日本の役割を、日本の政府開発援助（ODA）にスポットを当てて明らかにしてゆくことにある。

分析の内容は、①日本のODAの仕組みや役割を歴史的な沿革の中で明らかにし、②アセアン諸国の歴史的・民族的・政治的・経済的な側面から、その急速な経済成長の要因を探り、③日本のODAと日本の民間投資との関わりについて理解し、④ODAの事例として、代表的な3つのケースを取り挙げることによって研究を進めた。

この研究から次の重要な点がわかった。①日本のODAは地域的にはアセアン諸国、そして、分野的には、インフラ整備へ集中してきた。②日本のODAを受け入れたアセアン諸国にみる経済成長度合の緩急は、彼らが何処に早い時期から、日本のODAを導入し、インフラ整備に努め、その基盤の上に外国民間企業の資本や技術を誘致して、輸入代替型の産業政策を輸出促進型の産業政策へと切り換えたのかによって左右されてきたのである。事実、本研究においても、先行するODAによるインフラ整備と、その後を追う民間投資の整合が、効果的な現地経済開発の鍵となったことが明らかになった。

なお、日本のODAを今後、有効に活用してゆくためには、政府主導型に頼った“親方日の丸”的なアプローチのみでは不十分であることも理解されたい。すなわち、より有効なODAの活用のためには、政府によるインフラ整備に加え、民間企業の資本や技術を積極的に導入し、受け入れ国の要求に対して、企業家精神を植えつけることも非常に重要な要件となることも判明した。

政府と企業の協調、企業家精神の育成、この2つの条件が整うとき、はじめて日本のODAが日本にとっても受け入れ国にとっても、その有用性を倍加させるものであると私は考える。